



▲堀は水色、道路は黄色、寺社地は赤に彩色されている

郷土資料の散歩道

図書館郷土資料室

☎21-6111 内線6201

ごじょうかならびはらばらやしきわりちよう
御城下并原々屋鋪割帳

江戸時代の住宅地図

今回は「御城下并原々屋鋪割帳」という、冊子形式の絵図帳を紹介いたします。米沢城下と原々（南原や東原などの原方）に住む武士の名前と所属組名を屋敷ごとに記したもので、いわば江戸時代の住宅地図のようなものです。

図書館には文政八年（一八二五）と天保十五年（一八四四）に作成された二冊、旧藩主上杉家には弘化三年（二八四六）のものが一冊残っています。

こうした屋敷割帳は藩主の希望によって作られました。以前は一枚物の大きな城下絵図が作られていましたが、江戸後期にはコンパクトな冊子仕立となりました。

貼り紙が示す 武士の住居移動

下の写真は天保十五年の屋敷割帳の信夫町・林ノ町の部分です。住人の移動（引越し）があった屋敷地には、新たな住人名を書いた紙が貼られています。その貼り紙の多さに驚かされます。

写真の頁の貼り紙数は二四軒で、屋敷数六八軒の三五パーセントとなり、引越しが多かったことを表しています。

江戸時代は封建制度の下で、家臣は世襲制で代々同じ組や役職に付き、その住居も変わりが無かったと思われがちですが、頻繁に屋敷の移動があったようです。

なお、この貼り紙のある文政・天保の屋敷割帳は、代々米沢藩の絵図師をつとめていた岩瀬家に伝来し、昭和期に図書館の資料となりました。岩瀬家では屋敷割帳の完成後も、移動があった場合は新任人名を貼り、最新の住人情報を管理したものとされます。

一方、弘化三年の屋敷割帳は藩主

上杉家に伝来したもので、貼り紙は無く作成された当時の住人名が書かれています。

先祖（武士）の住んでいた場所が調べられます

弘化の綺麗な屋敷割帳は、江戸時代の住人名を調べる上で貴重な資料として閲覧要望も高く、昭和四十八年に置賜史談会が中心となって上杉家に許可を得て複製本を作製、希望者に頒布しました。当時の技術や経費の関係で白黒・縮小版となっていますが、手軽に見ることができま

ます。また、平成四年に米沢市立上杉博物館が城下絵図展を開催した際、図書館と共同での屋敷割帳の人名索引を作成したので、武士の名前からどの町に住んでいたか簡単に調べられるようになっていきます。

例えば青山家で調べると、青山茂兵衛（所属は与板組）は福田町に住み、青山虎松（御膳部）は花沢窪町に住んでいました。

この人名索引のような、調べるためのツール（道具）を作成し、利用者に提供するの